

## 人生の道をつくるものとは

新潟県・新潟大学教育学部附属新潟中学校 2年 古泉 修行

今年の夏はガラガラとした日差しが照り付け、猛烈に暑かった。僕は贅沢<sup>ぜいたく</sup>にも水風呂に浸かり、冷蔵庫で冷えた美味<sup>おい</sup>しい水をがぶ飲みした。日本では水道の蛇口をひねれば清潔な水を簡単に手に入れることができる。しかし、世界には、僅かな水を手に入れることに苦勞している水不足の国も多い。僕は、生命に必要不可欠な水を買うお金がない人々の生活を実際に見たことを機に、水の使い方を反省すると共に、お金の重要性を改めて考えた。

僕は夏休み後半、研修でカンボジア・プレアヴィヒア州を訪れた。まだ発展途上にあり、水道設備が整っていないため、人々は釜に雨水を溜<sup>た</sup>めて生活用水にしている。しかし、雨水では十分な量は賄えない。そこで、更なる水が必要となるのだが、貧富の差が激しいこの地域には、その水を得るためのお金の有無が、人々の生活を大きく変える現実があった。

市場には清潔な水が売られているので、お金のある家では飲み水を購<sup>く</sup>入する。しかし、貧困家庭では、遠く離れた川に何時間も歩いて毎日水を汲<sup>く</sup>みに行く。そして、その殆<sup>ほとん</sup>どは子どもの仕事になる。重い水を運ぶことは子どもにとっては重労働だし、命の保証のない水を飲むことになる。問題はそれだけではない。日中の水汲み作業は、子どもが学校に行って教育を受ける時間を奪うという現状があった。カンボジアにも義務教育制度はあるものの、学校に行く、行かないは家庭の事情による。しかし、教育を受けられないと、読み書きをはじめ、知識や技術の習得ができず、希望の職業に就くことが困難になる。つまり、水汲みにより、彼らは今日という時間だけではなく、教育を受ける権利、将来の夢や希望等、大切な未来も失ってしまうのだ。お金の有無が、子どもの一生を大きく変えてしまう。人々は道で物乞<sup>が</sup>いをしたり、観光客相手に物を売ろうとしたりする。仕事を生き甲斐<sup>が</sup>にしている様子はなく、生きるために死に物狂いでお金を稼ごうとする姿が印象に残った。

僕は子どもの頃、蛇口から流れる水にお金を重ねて考えたことはなかった。漠然と、水は自然と流れてきて、好きなだけ使えたと勘違いしていた。水遊びをして水を無駄遣いした時に、母から水の大切さを教えられ、水道代金が必要であることを知った。また、小学校の授業で水道局に見学に行き、その仕組みを学んだ。しかし、お店で表示された金額を支払って購入する品物とは違い、水は使用量も、それに対する金額も、実感できにくい。そのため、節水や節約は実行しにくく、無意識に使ってしまう。しかし今、水に支払うお金が、人生を左右する国があることを知った。

その上で、周囲を見回してみると、見えないお金で僕たちの生活を支えてくれているものがたくさんあることがわかる。電気やガスなどのライフラインが代表的だ。義務教育制度が確立されているのも、日本が平和で豊かな国であるが故だ。夢を実現するための勉強や努力は、個人の志の問題で、お金で買うものではないと思っていた。しかし、お金がなければ、努力する環境さえ得ることができないのだ。日本でも、お金を得るためには一生懸命仕事をする必要がある。しかし、日本には職種も職場も多く、仕事に就くための教育機関も豊富だ。子どもの権利は守られ、安心して毎日学校に行くことができる。今まで当たり前だと思っていた生活。それが、とても幸せで特別なことだと気づいた。

世界には、様々な理由から貧困に苦しみ、学校に行けず、未来を諦めざるを得ない人も多い。僕は、その現状を多くの人に知ってもらうため、啓発活動を行うと共に、プレアヴィヒア州に井戸を建設するための募金も周囲に呼びかけ始めた。以前は、募金箱があっても、そのお金の具体的な行き先がわからず、お金を入れることに躊躇ちゅうちよすることも多かった。しかし、即実効性のある募金は支援の第一歩になる。問題解決には、長期的な見通しが必要だろうし、現地の人を巻き込んでの持続可能な取り組みが必要だ。それでも募金は第一号の井戸を作り、現地のお金の生活を変えるという変化を起こす力があるのだ。

一般に血にじの滲む様な努力の末に達成した成果は、お金では買えない貴重なものと捉えられがちだ。しかし、その努力ができるのも、安心して勉強ができる環境があるからだ。そしてその生活は、両親が汗水流して仕事をして得たお金で築いたものだ。一見、目に見えない部分で動いている水道代金の様なお金も、両親が収支計算し、やりくりして捻出していることをきちんと認識し、節約を

心がけなければならない。今後、僕は物を大切にして節約した小遣いを、世界の子どもたちが平等に夢を実現できるための募金に使う。また、平和で安全な国日本に生まれ、その中で日々自由に勉強に励めることに感謝し、自分の力を最大限発揮できるよう全力で生きる。

